



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2015.7

No.375

日本野鳥の会 埼玉

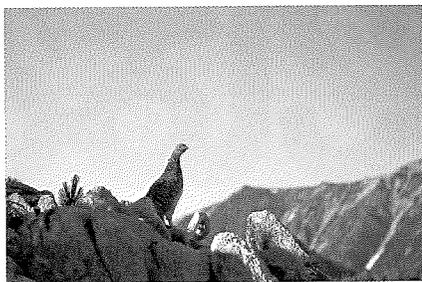
S H I R A K O B A T O



私の山歩きと鳥と

星 進 (入間市)

鳥見人には山好きの人も多い。
今月は、山のベテランに山と鳥の
思い出を語っていただきました。



ライチョウ夏羽 表銀座縦走コースにて

「カラオケの下手な者は、鳥の鳴き声の聞き分けが下手である」というのは、私のことである。音感が良くないせい、カラオケで歌ったことがない。長い在勤中に宴会や旅行で一度も歌ったことがないほどである。だから音の聞き分けができないと信じ込んでいる。そのせいか鳥の鳴き声を聞き分けられない。

山歩きでは鳥の姿を容易に確認できない。山歩きと鳥見では歩く速さが違う。声だけは聞こえる。だがこんな私でも鳥の名を知りたい。そこで『野鳥の歌』（日本野鳥の会収録・中西悟堂著）というのを求めた。エッセイや写真の他に47種の野鳥の声を両面にLP録音したペラペラのビニール製円盤4枚がついている。これを何度も聞いた。ホオアカ、コムクドリ、マミジロ、ヒクイナ、イワヒバリ、クロジなど、覚えても山歩きで聞けない鳥も多く入っている。

鳥の声の聞き分けで感心する人がいた。日本野鳥の会の会員でもある『鳥が教えてくれた空』の著者三宮麻由子のように、全て鳴き声で識別できないものかと願ったことがある。著者は「鳥は神様の箸休め」だという。スズメの声でその日に着ていく洋服を決めることがあるという。私など朝だから鳥がよく轉ると思っていたが、鳥が轉り始めたから夜が明けたと感じているそうだ。轉り始める時間で季節を判別できると、晴眼者では気の付かない様子も書かれている。鋭い感覚を羨ましく

思う。

山では空を眺めながら歩かない。詩作をしているわけではないが、いつも足元ばかり見て歩き、寡黙になる。しかし**いつまでも印象に残る鳥との出会いはある**。奥多摩の山で足元から飛び出され驚いたヤマドリ、アイゼンの雪を落としている時に現れた4月の常念岳の冬毛のライチョウ、幌尻沢から幌尻岳に登った帰りに寄ったピセナイ岳でのエゾライチョウ、大滝山でのハイマツの天辺に3羽も止まっていたホシガラス、マチガ沢の残雪の畔でコーヒータイムをとっている時に目の前に止まったオオルリ、蔵王の奥鳥帽子岳頂上から紅葉を背景にハイマツの天辺に止まっていたのを見下ろしたルリビタキ(右ページの写真)、にぎりめしをほおぼっていた時、足元に寄ってきた奥秩父和名倉岳のイワヒバリ、上高地の河童橋でのジョウビタキの轉りなどなど。いつもこちらが動かない時にうれしい出会いがある。同じ鳥でも、里の公園で出会うのと違った情景が楽しい。

もう少し思い出せば、「上毛かるた」に「つる舞う形の群馬県」とある群馬県のツルの右翼あたりを、西上州という山域でくぐる。その西上州に財宝が隠されているというロマンチックな名の物語山がある。この山から縦走して、途中で使われてない炭焼き窯の中に潜り込んで一夜を過ごし、翌日、大屋山から砥沢に下つてもう一泊。この夜は砥沢神社の神楽舞台で過ごした。寝袋に入ってもまもなく枕元の手が届きそうな近くでフクロウが鳴きだし、迫力ある声にしばらく寝付けなかった。その声量の大ききで身体がしびれるようで、よほど鳴いている木を蹴飛ばそうかと思ったほどだが、疲れていたので起き出すこともなく聞き続けているうちに寝込んでしまった。今ならこの経験はもう一度してみたい。しか

しスーパー林道が出来てからこの山城の山歩きには足が向かなくなりました。

単独で歩いている頃、野鳥図鑑は『日本の野鳥』（高野伸二著）を見ていた。この図鑑の迷鳥の図版がほとんどは右向きに書かれていたことを覚えている。図鑑とは言っても巻末に解説があり野外での鳥の見分け方が書かれていたのが購入の動機だったと記憶する。

しかし山歩きを始めて14,5年たってから、一人で鳥を見たり聞いたりしていても限界を感じ始めた。その頃に新聞で日本野鳥の会東京支部の紹介記事を読み東京支部に入会し、その11年後に埼玉に引っ越したのを機に埼玉県支部(当時)に入り直して、現在に至っている。

鳥に関心があるから鳥の本は読む。鳥に関する本に鳥のことが書かれているのは当然と思うが、山に関する本は、山のことだけでなく、木々や空や星や風や虫について書かれ、鳥もよく出てくる。串田孫一の『山のパンセ』にはさりげなく小鳥の名と鳴き声を書かれているが、カタカナで書かれた囀りは、その声を知っている者でないと実感できない。カタカナでは音色も抑揚も想像しかできないので、そんな鳥が早暁に歌っているのだなということは、私も沢山聞いているのでわかるが、個別の鳥の姿が浮かばない。鳥が出てくるエッセイなどは爽やかさを感じる。

串田孫一著『わたしの博物誌』にも鳥の話が出てくる。その中で「女性の魅力」という特集に胸の辺りの魅力を書く原稿を頼まれ、「キジバトの胸のすばらしさを知っていると、人間の女性の胸には魅力を感じない」とさりげなく原稿書きを断る話などは、キジバトの鳴き声とは別に記憶に残る。

串田の著作に出てくる鳥名を拾い出してみようかと思ったこともあるが、膨大な著作があるので諦めた。しかし、串田は鳥が好きだからといっても野鳥を食べたことはないらしく、食べたと書いてあるのを見たことはない。調理して食べているのは『野鳥料理』を書いた魚谷常吉である。カモ類やヤマドリ、キジ



などの料理は読む前の想定内だが、「焼き鳥にするとムナグロの味は良い。スズメはイスカより美味でありながら、上等の食膳には上されないのである」などと書かれているのを見ても、食べたいとも、鳥をよく知ったとも思うことはなかった。

年を重ねてから山登りを60歳と64歳の夫婦で始め、紀行を書いた人がいる。『山を愉しむ』（鳥賀陽貞子・恒正著）で、のんびり鳥の声を楽しみ、植物を愛でながら歩き、出会う人々に楽しく接しているのに好感をもつ。このお二人が歩いている年代が、私の若い時に歩いた時代に重なるので、持ち物や山の状況が容易に理解できる。尾瀬や火打山でイヌワシの幼鳥を識別していることや、持ち物に双眼鏡や図鑑を入れていることが私とは違う。30余種の鳥が書きとめられている。日本野鳥の会に入っているということで納得。メボソムシクイが「しっかり、しっかり」と四拍子で励ましてくれるというのも実感できる。

山歩きは、早暁の小鳥の囀りシャワーを浴びたり、感動できる景色が見られたり、おにぎりが美味しかったりと、楽しいことばかりではない。山仲間が中央アルプス空木岳で遭難し、捜索に携わったことや、旅行先の宴会の最中に、岩場から帰らないと遭難の知らせを受け、熱海から翌朝一番列車でとんぼ返りしたこともある。山歩きが苦しみになることもあるのである。山歩きで事故の怖さを知っているつもりなので、たとえ珍鳥を見損なっても安全だけには注意しようと心がけている。鳥の姿は「遠くのタカより、近くのスズメ」と思い、鳴き声と一緒に楽しむことができればと常々願い続けながら、もう少しだけ山で楽しむことも続けたいと思っている。

2015年春 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉 研究部

日 時： 2015年4月29日 9:35～11:25
 場 所：さいたま市 大久保農耕地
 天 候：晴れ

気圧の谷や湿った空気の影響で、雲が広がりやすい天気でしたが、調査中は晴れていました。また、連休にもかかわらず一般参加者3名を含む15名の協力が得られました。ありがとうございました。

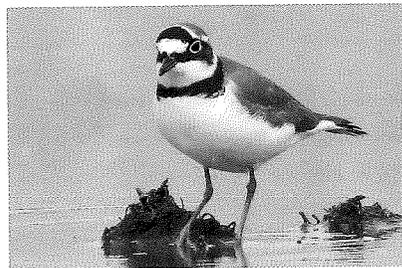
観察された種数、個体数は3種10羽で、今年も昨年に引き続きムナグロが観察されませんでした。しかし、1987年に調査を開始してから初めて、B区でセイタカシギが観察されました。

今年もまだ水の入っていない田が半分以上あり、これから田おこしが始まるような状態で、当日はシギ・チドリ類があまり観察されませんでした。しかし、大久保農耕地を定期

的に観察している会員によると、1週間前にはA区とAs区で140羽を越えるムナグロを確認したそうです。

表は春の調査結果のうち、最近の10年間をまとめたものです。それ以前の記録は「しらこぼと」2012年6月号(No.338)をご覧ください。

※タシギ属不明種は、種数に入れませんでした。(石井 智)



最も多かったコチドリ

春のカウント結果 (大久保農耕地)

| 年 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 調 査 日 | 4/29 | 4/29 | 4/29 | 4/29 | 4/29 | 4/29 | 4/29 | 4/29 | 4/29 | 4/29 |
| 天 候 | 曇り | 快晴 | 晴れ | 快晴 | 晴れ | 晴れ | 晴れ | 晴れ | 曇り | 晴れ |
| 1 タマシギ | | | | | | | | 2 | | |
| 2 コチドリ | 2 | 6 | 3 | 7 | 4 | 3 | 9 | 11 | 10 | 5 |
| 3 ムナグロ | 444 | 283 | 98 | 337 | 5 | 7 | 45 | 211 | | |
| 4 ケリ | | | | | | 1 | | | | |
| 5 キョウジョシギ | 3 | | | | | | | | | |
| 6 オジロトウネン | | | | | | | | 1 | | |
| 7 アオアシシギ | 2 | 1 | | | | | | | | |
| 8 タカアシシギ | | | | 4 | | 1 | | 1 | | |
| 9 キアシシギ | 1 | | 3 | | | | | | | |
| 10 チュウシャクシギ | 5 | 6 | 2 | 13 | | 8 | | 2 | 1 | 2 |
| 11 タシギ | 3 | 8 | 8 | 2 | 1 | | 1 | 8 | 2 | |
| 12 チュウジシギ | | | | | | 1 | | | | |
| 13 セイタカシギ | | | | | | | | | | 1 |
| タシギ属不明種 | | | | | 1 | | | | | 2 |
| 合 計 | 460 | 304 | 114 | 363 | 11 | 21 | 55 | 236 | 13 | 10 |

中軽井沢レディース探鳥会報告 野口由美子(上尾市)



5月16日(土)、中軽井沢で女性限定の探鳥会を行いました。コースは中軽井沢駅～長倉神社～別荘地内～野鳥の森のルートでした。

中軽井沢駅に到着すると、なんと雨。スタート地点の長倉神社では、キビタキの声が私たちを迎えてくれました。神社を出ると、電線にコムドリ数羽。皆さんでじっくり観察。雨の中でも幸先の良いスタートです。

キビタキ、ゴジュウカラ、全員で見ることができました。ヤブサメ、コルリ、センダイムシクイ、イカル、ウグイスなど、たくさんの鳥の鳴き声が雨と一緒に降り注ぎ、ぜいたくな気分になりました。鳴き声も含め38種を識別できました。

探鳥後は、ハルニレテラスでランチ会(写真右下)。参加された方々からも感想をいただきました。

*あいにくの雨でしたが、声はにぎやかにたくさん聞こえました。特にヤブサメの声は初めてで感激しました。(相原友江)

*本当に久しぶりに軽井沢の森を歩きました。静かな森の中を野鳥の声を聞きながら、またカエルの声にもぎやかに。新緑の美しさは雨も加わり一層の輝きでした。(海老原教子)

*雨は残念でしたが楽しく鳥のオッカケ。鳥の出もよく、楽な道を探鳥。ほとんど疲れずに終わりました。全部見られなかったのが残念。又お願いします。(大林一枝)

*まず最初にびっくりしたのは中軽井沢駅が新しくなっていたことでした。傘をさしながらの探鳥会。次回への期待が高まります。また参加したいです。(島村佐和子)

*初めての軽井沢でしたので、コースを覚えられたか心配です。でもクロツグミの鳴き声やゴジュウカラ、キビタキ、オオルリが見られて嬉しかったです。(高橋のり子)

*新緑が雨にぬれてより美しく、鳥の声も思った以上にたくさん聞かれ、初めてのレディース探鳥会はとても楽しかったです。クロツグミ、コルリ、フクロウ(見たかった!)の声が聞こえたのは嬉しかったです。(中川敏子)

*新緑の軽井沢は初めてでした。お天気には残念でしたが、キビタキ、クロツグミ等のほがらかな声を楽しむことが出来ました。(中間清美)

*初めての女性のみの探鳥会。雨模様の中、長倉神社の所でコムドリを何羽も見ることが出来、野鳥の森ではキビタキ、オオルリと雨の探鳥でもみんな真剣に見つけていました。(星野充江)

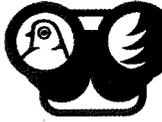
*藪雨(やぶさめ)の 声聞く雨の 軽井沢 (藤掛宮子)

*女性探鳥会は、とてもリラックスして心にやさしいですね!(宮田美枝子)

*あいにくの降ったりやんだりの雨でしたが、新緑の中、キビタキ、オオルリ、クロツグミの声に包まれ、楽しい探鳥会でした。(菱沼洋子)

*いつかは雨が上がってくれると思いながらの探鳥でしたが最後まで雨。でも女性ばかりでなごやかに過ごした一日でした。鳥は声をたよりに探して、全員でキビタキが見られてヨカット!(吉原早苗)





野鳥情報

戸田市・さいたま市南区彩湖 ◇2月19日、カンムリカイツブリ、オオバン、ヨシガモ、コガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、カワウ、ウグイス、メジロ、ヒヨドリ。4月2日、ツバメ、ウグイス、キジ、ベニマシコ♀3羽、オオバン、コガモ、カルガモ、カンムリカイツブリ、ユリカモメ、カワウなど。桜満開。全く期待してなかったベニマシコ。スコープで見ているバーダーに教えていただき確認する。まだいたか〜(陶山和良)。◇3月30日、彩湖北端でユリカモメ冬羽4羽、ヨシガモ♂2羽♀1羽、アカエリカイツブリ夏羽1羽、オオバン多し(鈴木紀雄)。

さいたま市西区～桜区の鴨川 ◇2月24日、植田谷堰下流側の中州で体の大部分と頭部が未だにエクリプス羽のハシビロガモ♂1羽が眠っていたが、近くでマガモ♂4羽が♀3羽の周りで始めた求愛行動が笛の音にも似た「ピーツ」という鳴き声もするなど、白熱するにつれて徐々に起き上がり泳ぎだした。3月4日、鴨川排水機場の左岸一带にマガモ41羽+、コガモ72羽+、オナガガモ♂1羽♀1羽、ユリカモメ1羽など。3月13日、2ヵ月振りに植田谷堰(ゴム堰)が立ち上がり、上流の水位が上昇中の所へ下流からコガモ♂3羽♀2羽、トモエガモ♂1羽が飛来。トモエガモはコガモの求愛ディスプレイの輪に加わり、「ココ…」と鳴きながらコガモ♀を追ったが、その後、くるりと向きを変え、1羽川下へ泳ぎ去った。近くの桜にモズ♂1羽♀1羽。他に夏羽のコサギ、夏羽のカイツブリなど。4月3日午後、島根橋～根切橋間でカルガモ10羽、アイガモ1羽、オナガガモ♂1羽など。以前からアイガモとペアを組んでいるカルガモ(翼に故障あり)が近くにいる3羽のカルガモに次々と突き掛かり、追い払う。やがて、夕刻になるとアイガモ、カルガモのペアは連れ立ってゆっくり川下へ引き揚げて行った(大塚純子)。

さいたま市桜区上大久保作田調節池 ◇2月25日、マンションの間の小さな池で作業員2人が湿地のゴミ拾い。池のカモたちは姿を消したが、5日後には戻って来ていた。カルガモ9羽、マガモ♂1羽♀1羽、コガモ数羽。4月19日、カワウ1羽が狭い池の中を泳ぎ回り、潜水採餌。近くの電柱の上で翼を広げて、しばらく干した後、飛び去った(大塚純子)。

さいたま市西区鴨川第一調節池 ◇2月28日、バン成鳥2羽、若鳥6羽がアシ原から土手の草地に出てきて採餌。上の遊歩道を犬を連れた人が通る度にアシの中にすたこら逃げ込む。オオバン5羽が池で盛んに水草を採食。堤一つ隔てた鴨川ではヒドリガモ♂10羽♀14羽、オカヨシガモ♂2羽が浮き寝。柳が芽吹き、シジュウカラ、ウグイスが轉る。他にコサギ、カワセミ、メジロ、オオジュリン、ベニマシコなど(大塚純子)。

北本市北本自然観察公園 ◇2月28日、キジ♀、シメ、シロハラ、ウグイス、カシラダカ5～6羽、アオジ、ジョウビタキ♂♀、アオサギ2羽、カルガモ、マガモ、コガモなど。冬鳥の数は既に激減していた(本多己秀・久文子)。

さいたま市桜区田島 ◇3月4日夕方、さくら草公園上空でトビ1羽、旋回と滑翔とを交互にしながら公園の周りをほぼ一周(大塚純子)。◇4月2日、コサギ、ダイサギ、アオサギ、ヒヨドリ、ツグミ、モズなど(陶山和良)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇3月1日午前中、アカゲラ、アオゲラ、コゲラ、シメ、カケス、オオジュリンなど(本多己秀・久文子)。3月4日ベニマシコ♂2羽♀1羽、アリスイ1羽、モズ♂♀、カワセミ♂♀、ウグイス、ホオジロ、アオジ、カケス、セグロセキレイなど(本多己秀・久文子)。◇3月4日、村国池奥の林からカケスの声が響く。3月14日、ベニマシコ♂1羽♀1羽、ジョウビタキ♂♀、エナガなど。3月28日、グラウンドにカワラヒワ10羽、ツグミ5羽、キジバト3羽。その中に夏羽のカシラダカ1羽が混じる。カルガモ、ヒドリ

ガモ、コガモ、キジ♀など。コチドリが来たが、カケスがまだいる。アカゲラ、オナガ、コジュケイの声（鈴木紀雄）。◇3月12日、ルリビタキ♀、ジョウビタキ♀、シメ、アオジ、アカゲラ♂♀、メジロ、エナガ。ヒレンジャク1羽、ここで見るのは3年振り。コガモ10羽±、ヒドリガモ50羽±、カワウ、モズ、コジュケイ4羽、ヒヨドリ、ムクドリなど。冬鳥の姿が少なくなった（内田克二）。

蓮田市馬込根ヶ谷戸公園 ◇3月8日午前6時30分、ウグイス初音。初めは大抵へたくそなのに、今年は正しく「ホーホケキョ」と鳴いていた（本多己秀）。

川越市伊佐沼 ◇3月15日、イカルチドリ5羽、タヒバリ1羽、コガモ、ヒドリガモ、カイツブリ、アオサギ、アオジ、セグロセキレイなど（本多己秀・久文字）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇3月17日、ピクニックの森に点在する小さい沼でハシビロガモ♂1羽、♀1～2羽、♀型の♂幼鳥1羽、カルガモ、マガモなど。コウモリ1匹、ウスタビガの鮮やかな黄緑色の繭1つ。池の端でヒレンジャクを撮る人の多さにビックリ！100人超か？池の上をヒレンジャク3～4羽とヒヨドリ2羽が飛び交っていた（大塚純子）。◇3月30日夕方、ピクニックの森でヒレンジャク9羽、池上空で虫をフライングキャッチ。4月3日、ピクニックの森でヒレンジャク16羽、シメ、モズ、エナガ、シロハラ、アオジ、シジュウカラなど。コゲラ2羽がからまって回転しながら上空から落下してきてビックリ。三ッ池でアカゲラ♀1羽。子供の森は鳥影薄く、藪の中でガビチョウがガサガサやっていた（鈴木紀雄）。

蓮田市黒浜 ◇3月22日、黒浜沼でコガモ10羽±、カワウ3羽、カイツブリ1羽、キジ♂1羽、オオジュリン3～4羽、カシラダカ1羽、モズ♂♀、ベニマシコ♂♀、ウグイス、ツグミ1羽、チョウゲンボウ1羽（本多己秀・久文字）。◇3月28日、上沼上空をツバメ♂1羽飛翔。アシ原でモズ、ホオジロ、アオジなど。バンとベニマシコの声。

東埼玉病院敷地内でほぼ夏羽のカシラダカ10羽。林内の小路をタヌキ、ルリビタキ♂成鳥、コジュケイが横切る。他にシロハラ、シメ、アオジなど（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区七里駅付近 ◇3月24日、電車の車窓より飛翔するツバメ1羽、今季初認（鈴木紀雄）。

加須市柏戸 ◇3月25日、ハヤブサ1羽、白い腹部ととがった翼。独特の飛び方で低空を飛んだ（本多己秀）。

さいたま市西区水判土 ◇3月27日、新袋橋の下を流れる新川で防鳥ネット様の網に絡まりもがくコガモ♂1羽を発見。急ぎ川から引き上げて網から外し、土手へ放すとコガモは仲間のいる方へまっしぐらに飛び去った。近くの本流（鴨川）にオオバン7羽、カイツブリ1羽など。カモの多くはペアで行動。カルガモ以外は数が減ってきた。岸辺のアシ原でオオジュリン5羽（大塚純子）。

吉見町八丁湖 ◇3月28日、オシドリ♂1羽、アカゲラ、コゲラ、ガビチョウなど。ウグイスの囀りが上手になった（本多己秀・久文字）。

さいたま市岩槻区城北大橋北 ◇3月29日、電線にシラコバト1羽（鈴木紀雄）。

渡良瀬遊水地 ◇4月5日、トビ、オオタカ、ノスリ、ミサゴ。夕方、やっとチュウヒ1羽。畑の方からウズラの声。オナガもいた。野焼きで残ったアシ原の中から久しぶりのヒクイナの声、でも1回きり。更にクイナとオオセッカの声、ベニマシコ出現（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区 ◇4月17日午前、蓮田市寄りの綾瀬川北岸でキジ♂3羽が縄張り宣言。イソシギ2羽が素早く飛んだ。ダイサギ7羽が田の畔に立っていた。ツバメ、カワラヒワなど（本多己秀）。

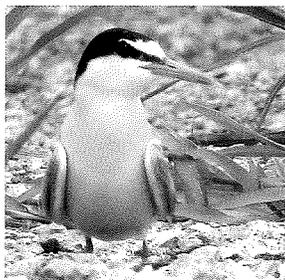
さいたま市岩槻区掛 ◇4月24日、ムナグロ70羽（本多己秀・久文字）。

表紙の写真

スズメ目キバシリ科キバシリ属キバシリ

今年の4月26日、横瀬町にある埼玉県県民の森で撮影しました。 佐藤久志(狭山市)

行事案内



コアジサシ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生50円、一般100円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月5日（日）

集合：午前8時15分、東武日光線板倉東洋大前駅。または午前8時35分、思い出橋駐車場。

交通：東武線新越谷7:21→春日部7:35→南栗橋7:52着、7:53発新栃木行きに乗り換え板倉東洋大前8:09着。またはJR宇都宮線 大宮7:03→栗橋7:38着、東武線7:57発新栃木行きに乗り換え。

解散：午前11時30分ころ、谷中湖北ブロック展望塔付近の藤棚。

担当：佐野、植平、佐藤、進士、田邊、玉井、野口（修）、茂木、山田

見どころ：ヨシ原を中心にササゴイやヨシゴイ、そしてカッコウ、コヨシキリなどを探します。今年もオオセッカの声が聞かれるでしょうか？ 梅雨の時期です。暑さと雨への対策はお忘れなく。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月12日（日）

集合：午前8時20分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷8:00発、または寄居7:39発に乗車。

担当：榎本、新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：当会の歩みの基礎を築いてきた大麻生探鳥会。鳥がいたっていなくなったり、それも貴重なデータの蓄積です。暑さも厳

しくなる季節です。無理をせず、のんびり歩きましょう。

ご注意：集合時刻が、今月から9月までは夏時間です。飲み物の携帯と、必要な方はUV対策をお忘れなく。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月18日（土）

集合：午前9時20分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅北口から、立正大学行き9:05発バスで「滑川中学校」下車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。

費用：参加費以外に入園料410円（子供80円）、65歳以上210円（要年齢を証明できるもの）。

担当：中村（豊）、岡安、佐久間、鈴木（秀）、内藤、藤掛、藤澤、松下

見どころ：樹林内に響き渡るのはガビチョウの声。この時季は野鳥の姿を見つけることは難しいので、咲き出したヤマユリや国蝶オオムラサキを探して歩きます。大変蒸し暑くなることが予想されます。暑さ対策はしっかりと。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月18日（土）午後3時～4時ころ

会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：7月19日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東

口、集合後路線バスで現地へ（ご注意：案内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です）。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：青木、赤堀、浅見(健)、浅見(徹)、石塚、楠見、小菅、小林(み)、柴野、新部、島山、増田

見どころ：梅雨も明け本格的な夏到来です。暑い中の鳥見となりますが、木陰を探しながら鳥も探しましょう。気温によっては鳥見時間を短くいたします。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月26日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越 8:42 発、所沢 8:39 発に乗車。

解散：正午ころ、稻荷山公園。

担当：長谷部、石光、久保田、鈴木(秀)、高草木、中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本(真)

見どころ：河川工事や遊歩道の整備などで、かなり様子が変わりました。心配されたササゴイは今年も健在です。いつもの事ですが、かなりの暑さが予想されます。水、帽子を持ち、体力に余裕のある方の参加をお待ちしています。

栃木県足尾・松木溪谷～群馬県館林市・多々良沼探鳥会(要予約)

期日：8月30日(日)

集合：午前7時、東武野田線岩槻駅前。
解散：集合場所にて午後9時ころの予定。

※帰りに JR 高崎線北鴻巣駅に立寄ります。

交通：集合地から貸切バスを使用。

担当：入山、佐野、野口(由)、玉井

費用：8,500 円(バス代、夕食代、保険料その他の雑費等)。過不足の場合は当日清算。
定員：23 名(応募者多数の場合、先着順) 最少催行人数は 17 名。

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢(保険加入に必要)、電話番号を明記して入山博

まで。7月1日消印から受付開始。

見どころ：「イヌワシを絶対見たい」との想いで再チャレンジです。帰りに群馬県館林市多々良沼に寄って、ツバメの罫入りを観察します。

その他：雨天の場合、中止。昼食・雨具持参。
参加者には後日、詳しい案内書を郵送。

はみ出し行事報告

1月25日(日) 狭山市 入間川

参加：24名 天気：晴

キジ オカヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ バン オオバン ヒメアマツバメ イカルチドリ トビ オオタカ カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ(40種)(番外：ドバト) 久しぶりにカモが5種。4種までは何度かあったが、5種以上は2006年3月に6種記録して以来。種類は元々多くはなかったが、個体数が減っている。カモさん、何が気に入らないの? (長谷部謙二)

1月29日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加：41名 天気：晴

ヨシガモ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ クイナ バン オオバン トビ オオタカ ノスリ カワセミ アカゲラ チョウゲンボウ モズ カケス ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン(44種)(番外：ドバト) オオジュリン、カシラダカ、ホオジロの群れが楽しませてくれる。クイナが鳴きながら飛び、ベニマシコやジョウビタキも現れた。上空にはチョウゲンボウ、オオタカ、トビ。ノスリはいつもの電柱、林ではアカゲラ、カケス。ヨシガモの群れの傍で佇むゴイサギ幼鳥を観察して終える。(相原修一)



行事報告

1月11日(日) 千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園

参加: 28名 天気: 晴

ヒドリガモ オナガガモ スズガモ ビロードキンクロ ホオジロガモ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ オオバン ダイゼン ハジロコチドリ シロチドリ ミヤコドリ イソシギ ミユビシギ ハマシギ ウミネコ カモメ セグロカモメ ミサゴ ハヤブサ ヒバリ ヒヨドリ メジロ セッカ ムクドリ ツグミ イソヒヨドリ スズメ ハクセキレイ タヒバリ ホオジロ オオジュリン (34種) (番外: ドバト) 潮が引き始めて出てきた干潟にミヤコドリが次々と飛来し、その数200余りが目の前で餌採り。こんな数をこんな近くで見るのは探鳥会としては初めて。たっぷり見た後は、ホオジロガモ、そして昨年見られなかったビロードキンクロ、ハジロコチドリを見て終了。 (佐久間博文)

1月12日(月、祝) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 56名 天気: 晴

コジュケイ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ パン オオバン ノスリ コゲラ アカゲラ アオゲラ モズ カケス ハシブトガラス キクイタダキ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ ツグミ ルリビタキ キセキレイ ビンズイ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (37種) (番外: ガビチョウ、ソウシチョウ) 年初めなので、金児管理センター長よりご挨拶を頂き、集合写真を撮ってからスタート。ルリビタキが早くも日本庭園で観察ができ、上空にはノスリが飛んだ。山田大沼では、カモ達と、カワウの巣作りの様子を見た。鳥合わせは、多目的ホールの暖かい部屋で行った。 (藤掛保司)

1月12日(月、祝) 春日部市 内牧公園

参加: 23名 天気: 快晴

キジバト コサギ コゲラ アカゲラ モズ オ

ナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ エナガ メジロ ムクドリ シロハラ アカハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ (24種) 開始まもなくジョウビタキ雄1羽が目前に飛来し、次いで垣根からアカハラ1羽が出てくれる。更に歩を進めると櫓の枝に佇むシロハラ1羽、全員これに釘づけとなる。正月早々、紅・白の鳥が見られて縁起がよい探鳥スタートだったが、次第に北風は強まりアオジ、ホオジロ、ホオアカなどの小鳥類は見られず仕舞い。林間ではジョウビタキ雌1羽がじっと小枝の先に止まってくれたり、コゲラをじっくり見られたりしたのは救いだった。 (石川敏男)

1月17日(土) 深谷市 仙元山公園

参加: 33名 天気: 晴

カルガモ コガモ キジバト カワウ ダイサギ コサギ トビ カワセミ コゲラ アカゲラ アオゲラ モズ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ イソヒヨドリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ カシラダカ (34種) (番外: ドバト) 出発してすぐ、滝宮神社でカワセミとジョウビタキが出迎えてくれた。唐沢川合流点には、今年もイソヒヨドリが現れ、全員が至近距離で観察できた。仙元山の冬鳥は少なかったが、アオゲラ、シロハラやカラ類の混群が楽しませてくれて、合計34種と上々だった。 (新井 巖)

1月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 9名

相原修一、宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、藤掛保司、増尾隆

1月18日(日) 加須市 渡良瀬遊水地

参加: 40名 天気: 晴

ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ キンクロハジロ ミコアイサ カワアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ タゲリ セグロカモメ トビ チュウ

ヒ オオタカ ノスリ カワセミ コチョウゲンボウ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ベニマシコ ホオジロ オオジュリン (41種) (番外:ドバト) 強風を避けて中ノ島の観察台へ急ぎ、水鳥を観察した。程なくカワアイサがすぐ近くまで寄ってきてビックリ! 他の探鳥会ではまず見られない『絶景』だ。ここ谷中ブロックはマガモに次いでミコアイサが多く、ざっと見でも200羽以上。こちらも絶景。駐車場へ引き返す途中、干し上げが始まった谷中湖の湖畔まで降りてみると、風をよけながらヨシガモの群れが観察できた。(佐野和宏)

1月18日(日) さいたま市 三室地区

参加: 56名 天気: 晴

マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ バン オオパン イカルチドリ カワセミ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ カシラダカ アオジ (29種) (番外:ドバト) 少し趣を変えて、芝川右岸を下流へ向かうと、新宿橋手前の小さな州にイカルチドリ。実に見つけにくい。「ここに、いますよ」と言われても、なかなか分からない。目が慣れてくると「あ〜! やっと分かった!」。ほとんど全員が見られたと思う。岸辺の陽だまりではカモたちが休息中。陽光を浴びたマガモの雄の頭部に、思わず見とれる。今回は子供たちの参加が多かった。寒さをものともせず、楽しそうに走り回る姿に元気をもらおう。また来てね! (小林みどり)

1月24日(土) 久喜市 久喜菖蒲公園

参加: 44名 天気: 晴

ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオパン カワセミ コゲラ モズ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ

カワラヒワ アオジ オオジュリン (34種) (番外:ドバト) 穏やかな日差しの中、点在するカモ9種を観察。順光で綺麗だ。対岸では今回の目玉、亜種ダイサギが寛いでいる。亜種チュウダイサギとの違いを説明。工場の屋上にミヤマガラスを発見。全員が特徴を観察できた。終わりの頃、後列の数人がオオジュリンを見つけた。(長嶋宏之)

1月25日(日) 長瀬町 長瀬

参加: 50名 天気: 晴

マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ ダイサギ イカルチドリ イソシギ トビ ツミ ノスリ コゲラ アオゲラ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ カヤクグリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ アトリ カワラヒワ シメ イカル ホオジロ カシラダカ アオジ (40種) 岩畳まで移動して、自然美に癒されながらの観察。藪中のアトリ、先頭の数人はカヤクグリも見られる。月の石広場の松林ではビンズイ4羽を観察。鳥合わせの最中上空にツミが現れ一時中断。ノスリも出て大盛り上がり。(井上幹男)

1月25日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 39名 天気: 晴

キジ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ オオパン タシギ オオタカ カワセミ アリスイ コゲラ チョウゲンボウ モズ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ アカハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ アトリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ ホオアカ カシラダカ アオジ オオジュリン (41種) スタートして間もなく枯れ草の中からアトリが何羽も飛び出して全員でじっくりと見る事ができた。沼の周囲の枯れ草の中でホオジロ類やシメ、カワラヒワ等が何度も現れて楽しめた。ベニマシコの小さな群れを見ているとアリスイという声。久しぶりのその姿に皆で盛り上がり終了した。(玉井正晴)

9ページに『はみ出し行事報告』があります。



● 野鳥の子そだて応援キャンペーン

人によってヒナが保護されてしまうのを防ぐため、(公財)日本野鳥の会(本部)が続けてきたキャンペーンは今年で 21 年目となります。しかし、毎年、埼玉事務局にも問い合わせが続きます。

「ヒナを拾わないで!!」ポスター

埼玉会員富士鷹なすびさんのイラストによるポスターを、「本部のホームページ→当会の活動→普及教育→ヒナを拾わないで!!キャンペーン」からダウンロードできます。



ご活用ください。

『ヒナとの関わり方がわかるハンドブック』



同じページから、落ちていたヒナに出会った時の対応の仕方がわかる冊子もダウンロードできます。

ご希望の方には無料でプレゼント。氏名(フリガナ)、生年月日(西暦)、性別、郵便番号とご住所、

電話番号を記入して、nature@wbsj.org、FAX03-5436-2635、または下記青枠内の本部住所(品川区)の日本野鳥の会「ヒナハンドブック」係あてにお申込みください。

巣立ち直後のヒナはあまり動かないので、落ちていたように見えますが、親鳥が近くにあります。なるべく早く親子再会できるように、その場からはなれましょう。

安全のためヒナを近くの茂みの中に移すことはできます。親鳥は、ヒナの声でその居場所を見つけます。

● 会員数は

6月1日現在 1,755 人。

活動と予定

● 5月の活動

5月9日(土) 『しらこぼと』6月号校正(海老原教子、海老原美夫、志村佐治、長嶋宏之)。

5月17日(日) 役員会(司会:森本國夫、総会準備・その他)。

5月18日(月) 『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』6月号を郵便局から発送(海老原美夫)。

● 7月の予定

7月4日(土) 編集部会。普及部会。

7月11日(土) 8月号校正(午後4時から)。

7月18日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

7月19日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

会や会員の持っている膨大な野鳥観察データをデータベース化すれば、情報としての利用価値が高くなる。そう考えて、探鳥会、調査、野鳥情報のデータを扱える野鳥データベースを Microsoft Access で開発し、4月から研究部で使ってもらえるようになった。今後のデータ活用の進展に期待している。

(森本)

しらこぼと 2015 年 7 月号(第 375 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社